

学生支援の現場から

◆岡山短期大学
「人命尊重マインド」を育てる学生支援

浦上 博文
岡山短期大学 幼児教育学科教授

平成十九年度の文部科学省「学生支援GP」に選定された「人命尊重マインド養成支援プログラム」は、人命を脅かす事件や事故が頻発する現代において、学生が人命尊重の精神を備えた人間に成長するよう支援する取組です。

一、交通安全教育講習（写真1）「保育者として交通安全教育を指導できるスキルの習得」、「交通事故の加害者にも被害者にもならないための運転技術と知識の習得」を目的として、鈴鹿サーキット交通安全センターでの研修を実施しました。全学生が幼児向け交通安全教育を体験しました。さらに、普通車免許を取得している学生は運転習慣チェックを行い、運転免許を持っていない学生は原動機付自転車の運転体験によってその危険性などを学びました。この講習を通して、学生は、交通参加者としての自覚を高め、幼児の交通安全教育が保育者の重要な仕事

であることを理解しました。

二、救命救急教育講習（写真2）「実践的な救命救急法及びAED使用方法を習得し、一般社会、保育現場において救命に積極的に貢献する態度及び保育者としての自覚を身に付けること」を目的として、アメリカ心臓協会の認定資格「ハートセイバーAED」を取得できる講習を実施しました。講習の前半では成人と小児に対する心肺蘇生法を、後半ではAEDの使用方法及び窒息の解除方法を習得しました。さらに、乳児の心肺蘇生法も学びました。受講後、「受けて良かった」、「これから先に、このような場面に立ち会ったときには、すぐに動いて命を助けるようにしたい」などの積極的な感想が寄せられました。



写真1 交通安全宿泊研修・免許のない学生のための二輪講習



写真2 救命救急教育講習・乳児の心肺蘇生訓練



写真3 風見しんご氏講演会

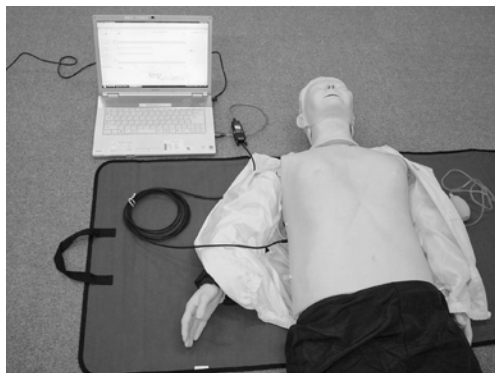


写真4 命の資料室・レスキューマネキン

三、「命の尊さを学ぶ講演会（写真3）」昨年度は、「交通参加者としての学生自身の在り方を反省しつつ、自他の安全確保に貢献する態度と保育者としての責任感を一層養う」ことを目的として、昨年一月に長女を交通事故で亡くされた風見しんご氏の講演会を実施しました。突然家族が奪われる悲しさ、交通安全に対する大人の責任などについてのお話を聴きました。事故当日の話では多くの学生が涙し、命の大切さを感じていました。

四、「命の資料室」の設置・運営（写真4）「レスキューマネキン・AEDを用いた救命救急の知識・技能の獲得」などを目的として、「命の資料室」を設置し運営しています。本年四月から、救命救急教育講習を受けた二年生が獲得した知識・技能の維持・向上に努めています。これらの取組により、学生は確かな成長を遂げています。近い将来、尊い人命を守るため自ら行動できる保育者として社会に出立するものと確信しています。